エコアクション21
認証番号0009414

発行日：2024年9月11日
対象期間：2023年7月1日から2024年6月30日

エコアクション21
環境経営レポート

水まわりの匠
株式会社アオノ

株式会社　アオノ

目次

組織の概要	1
対象範囲	2
環境経営方針	2
環境経営目標	3
環境経営計画	4
環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
実績・取組結果とその評価	7
次年度の環境経営目標	9
中長期目標の更新	10
次年度の環境経営計画	11
環境関連法規などの遵守状況等	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13

組織の概要

事業者名　株式会社アオノ　会社法人等番号　1-0801-01-008033
代表取締役　土屋智昭
取締役　土屋靖
取締役　芦澤章太
取締役　渡邉宗昭
取締役　岩本勇也

所在地　本社 【静岡県富士市久沢1119番地8】
TEL:0545-71-7071　FAX:0545-71-7759
床面積:430㎡　資材置場面積:267㎡　駐車場面積:415㎡

川成営業所 【静岡県富士市川成新町26】
TEL:0545-61-1166　FAX:0545-61-1167
床面積:696㎡　資材置場面積:2,294㎡　駐車場面積:367㎡

大淵営業所 【静岡県富士市大淵2358番地1】
TEL:080-4122-8733　FAX:0545-35-5665
床面積:91㎡　駐車場面積:182㎡

広見営業所 【静岡県富士市石坂293番地1】　2024年4月9日開設
TEL:080-3347-5528
床面積:㎡　資材置場面積:㎡　駐車場面積:㎡

事業の概要　静岡県知事許可(特-3)第15200号
土木工事業
管工事業

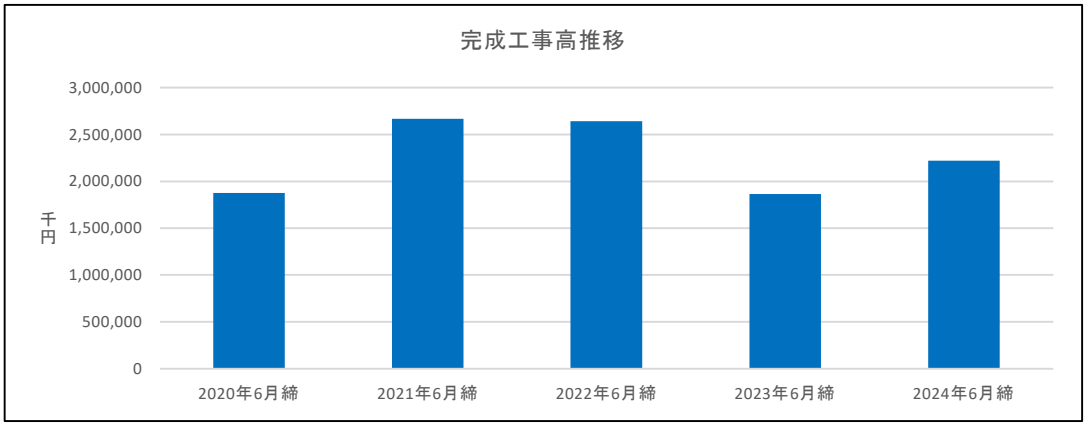
静岡県知事許可(般-3)第15200号
とび･土工工事業
電気工事業
水道施設工事業
消防施設工事業

静岡県知事許可(般-5)第15200号
塗装工事業
防水工事業

事業規模　会社成立の年月日
1978年7月19日

資本金の額
20,000千円

完成工事高
2020年6月締　1,875,728 千円
2021年6月締　2,667,460 千円
2022年6月締　2,640,955 千円
2023年6月締　1,864,104 千円
2024年6月締　2,220,589 千円



対象範囲

認証･登録範囲	本社、川成営業所及び大淵営業所で実施する全活動 （広見営業所については、2025年中に認証･登録予定）
レポートの対象期間	決算期同様 7月1日から翌年6月30日
レポートの発行日	9月第二水曜日

環境経営方針

企業理念

お客様の立場になって考えるところからはじめます。
修理は「される側」であるお客様のご要望を叶えることと認識しています。
すべての優れた施工は、相談･納得･安心から生まれます。

環境経営方針

全ての事業活動が環境へ何らかの影響を与えていることを認識し、環境保全活動を推進する。

CO2排出量を削減するため化石燃料使用量に着目し、使用エネルギーの低減に努める。

新しい風にも柔軟に応え、IT化等による作業効率の向上に努める。

従業員に寄り添うことで環境保全活動への関心意欲を高める。

分別等の徹底による再資源化を目指し混合廃棄物排出量の削減に努める

会社地域の活動に参加し、河川や現場周辺の清掃活動に努める。

お客様を第一に考え、よりよい提案及び施工を行う。

経営の誓約

株式会社アオノは以下について活動を行う事を誓約致します。

環境経営の継続的改善
　取組状況の確認及び評価を行う際に経営方針と照し合せ、必要に応じて改善する。

環境関連法規の遵守
　株式会社アオノとして管理すべき全ての法規を遵守する。

改訂日：2019年9月20日
株式会社アオノ
代表取締役　土屋智昭

制定日：2012年9月25日
改訂日：2015年4月30日（第一回）

環境経営目標

二酸化炭素排出量の削減

2018年度実績値を基準とし、中長期目標である2024年6月末までに「10%以上の削減」を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値 (kg-CO2/売上高百万円)	–	89.78	87.95	86.12	84.29	82.45
排出量 (kg-CO2)	209,352.31	205,387.53	209,198.01	201,298.49	196,527.23	
実績値 (kg-CO2/売上高百万円)	91.62	109.54	78.43	76.24	105.43	
削減率	–	19.56%増	14.40%減	16.79%減	15.07%増	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は2019年東京電力パワーグリッドの調整後排出係数0.462kg-CO2/kWhを使用

化石燃料による二酸化炭素排出量が全体の9割弱を占めているため、車両等に焦点を当て目標達成をめざす。
車両及び使用機器の老朽化により燃費の悪化等が懸念されるため長期的な目標として機器の入替を行う。
又、社内のIT化に伴いランニングコストの微増が予想されるが、それ以上の作業効率向上を目標とすることで働き方改革及び購入電力量の削減につなげる。
現時点では車両毎の燃費管理ができていないため、以下の計画に則り管理化を進める。

2021年　上記活動を基にコストパーフォーマンスの悪い車両等を把握し改善に努める。
2022年　実績値が悪化した原因の究明と対策を立案し23年度にて目標値まで下げる活動を行う。
2023年　翌年以降の中長期目標を策定し、必要な課題及び対応を精査する。

建設廃棄物排出量の削減

建設廃棄物排出量は工種等により内容が大きく変動するため目標の設置が難しい。
また、再資源化についてはCOBRISの使用により徹底しているため混合廃棄物の削減を目標とする。
2018年度実績値を基準とし、中長期目標である2024年6月末までに「5%以上の削減」を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値 (kg/売上高百万円)	–	23.65	23.41	23.17	22.93	22.69
排出量 (kg)	54,600	50,830	44,980	51,090	39,520	
実績値 (kg/売上高百万円)	23.89	27.10	16.86	19.35	21.20	
削減率	–	13.44%増	29.43%減	19.00%減	11.26%減	

水使用量の削減

従業員数や工事内容によりマテリアルバランスの把握が難しい。
また、従業員数については事務所間の移動が多いためアオノ全体として把握する。
常に「10m3/従業員数」以下を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値 (m3/従業員数)	–	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
使用量 (m3)	468	423	444	402	427	
実績値 (m3/従業員数)	10.40	6.93	6.62	6.38	6.57	
削減率	–	–	–	–	–	

化学物質使用量の削減

弊社で使用している化学物質は接着剤等の極少量に限られる。
使用時の注意点及び保管箇所等の周知徹底を行い、無駄な使用や排出を抑制する。

自らが施工・販売・提供する製品の環境性の向上及びサービスの改善

一部工事現場では保証工事（アフター対応）等の無償対応が見受けられるため、現況把握方法を検討する。
顧客満足度の向上を目標とし無償対応の削減に努める。

環境経営計画

二酸化炭素排出量の削減

区分	実施内容	責任者	2023年 7～9	2023年 10～12	2024年 1～3	2024年 4～6
購入電力	休憩時間における一部消灯	高橋由美子	→	→	→	→
	残業時は必要箇所のみ点灯	羽田野武彦	→	→	→	→
	空調温度の管理　22℃～24℃	鈴木誠二 土屋利英子 渡邉宗昭		→	→	
	空調温度の管理　26℃～28℃	鈴木誠二 土屋利英子 渡邉宗昭	→			→
	退勤時のPCシャットダウン	山田享樹	→	→	→	→
化石燃料	エコドライブの推進	池田将生	→	→	→	→
	アイドリングストップの推進	池田将生	→	→	→	→
	過負荷,過積載の禁止	池田将生	→	→	→	→
	特定自主検査等の実施	山田享樹	各車両点検予定による			

建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

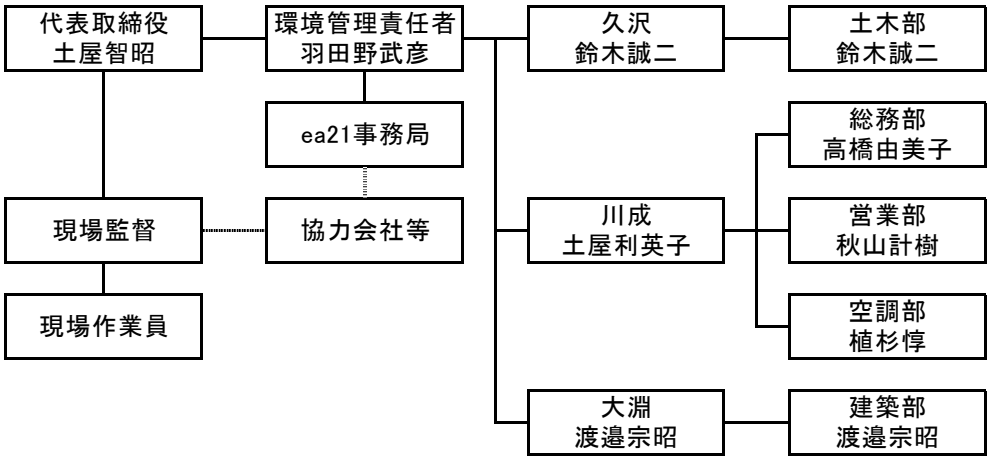
区分	実施内容	責任者	2023年 7～9	2023年 10～12	2024年 1～3	2024年 4～6
各事務所	古紙の再利用を推進	高橋由美子	→	→	→	→
	再資源ごみの分別	池田将生	→	→	→	→
	混合廃棄物BOXの不定期確認	池田将生	→	→	→	→
工事現場	廃棄物の分別排出	土屋智昭 鈴木誠二 鈴木治久	→	→	→	→

水使用量の削減

区分	実施内容	責任者	2023年 7～9	2023年 10～12	2024年 1～3	2024年 4～6
各事務所	節水の徹底	高橋由美子	→	→	→	→
	車両清掃時の事前泥落としなど	池田将生	→	→	→	→

環境経営計画に基づき実施した取組内容

実施体制



代表取締役　エコアクション21における統括責任者
環境管理責任者の任命
経営における課題とチャンスの明確化
環境経営方針の策定
代表者による全体の見直し・指示

環境管理責任者　環境経営システム全体の構築及び実施の運用管理
環境経営レポートの確認
代表取締役へ報告

ea21事務局　環境管理責任者の補佐
環境コミュニケーションの実施
エコアクション21における文書及び記録の作成
協力会社への指示,協力,教育等

教育の実施

実施者	対象者	教育・訓練内容	実施方法
環境管理責任者	全従業員	エコアクション21について説明 環境経営目標及び環境経営計画の周知	朝礼,集会 WowTalk
ea21事務局	全従業員	必要に応じて各種教育を実施 環境関連法規の周知徹底	随時説明 WowTalk
ea21事務局	事務員	役割分担及び責任の認識を促す	随時説明 WowTalk
ea21事務局	協力会社等	必要に応じて各種教育を実施 エコアクション21の認証を促す	随時説明
営業所責任者	事務員	役割分担の割り振り及び徹底	期毎更新
現場監督	現場作業員	作業所内におけるエコアクションの考案及び実施	安全教育
現場監督	協力会社等	作業所内におけるエコアクションの考案及び実施 エコアクション21の認証を促す	随時説明

内部コミュニケーション	長期休暇前には廃棄物BOXの養生を促す。 期毎に環境経営目標を達成するための責任者を定め、各事務所内で周知する。
外部からの苦情・要望	組織の信頼性を高めるため、全ての情報を関係者に周知する。 WowTalkにおけるグループトークの使用を推奨。
環境経営レポートの発行	7月1日から翌年6月30日を対象期間とし、毎年9月第二水曜日を発行日とする。 環境経営レポートは電子ファイルにて全社員に配布し、HPに掲載する。

環境関連法規を遵守するため、各関係者にとりまとめ表を配布する。
　取りまとめ表は定期的に更新する事とし、環境関連法規の全文を記した別紙を添付する。
　一部書類の保存が必要な箇所についてはea21事務局と確認し適切な様式を使用することとする。

実績・取組結果とその評価

経営目標の達成状況

二酸化炭素排出量の削減

四半期確認	～9月末	～12月末	～3月末	～6月末
排出量 (kg-CO2)	47,694.79	93.533.82	140,308.51	190,101.22
実績値 (kg-CO2/売上高百万円)	88.98	104.74	84.11	85.63

3ヶ月確認　売上が前年の53.48%となる。総排出量は抑えられているが原単位では大きく増加している。

6ヶ月確認　同上。中長期目標更新時には原単位の計算に仕掛工事を含める事とする。

9ヶ月確認　総排出量が前期を超過している。原単位のバランスを確認しつつ取組を継続する。

年間確認	18.7～19.6	23.7～24.6	年間総評（確認・評価,並びに問題の是正）
目標値 (kg-CO2/売上高百万円)	－	82.45	【目標未達成】 近隣県外における業務時にはホテルを使用することによりダンプ等による軽油使用量が減少したが売上高がコロナ禍以前の水準に達しておらず実績値が悪化している。 昨年度よりは改善されているがより一層の取組が必要である。
排出量 (kg-CO2)	209,352.31	190,101.22	
実績値 (kg-CO2/売上高百万円)	91.62	85.63	
削減率	－	6.54%削減	

建設廃棄物排出量の削減

年間確認	18.7～19.6	23.7～24.6	年間総評（確認・評価,並びに問題の是正）
目標値 (kg/売上高百万円)	－	22.69	【目標達成】 一般廃棄物との徹底的な分別等により排出量を大きく減らすことができた。 今後も継続して分別の徹底を図る。
排出量 (kg)	54,600	47,060	
実績値 (kg/売上高百万円)	23.89	21.19	
削減率	－	11.30%削減	

水使用量の削減　10m3/従業員数以下を目標とする。

年間確認	18.7～19.6	23.7～24.6	確認・評価,並びに問題の是正
目標値 (m3/従業員数)	－	10.00	【目標達成】 24年4月に新規事務所が開設されたことにより使用量の増加が見込まれる。 適度な節約を心掛けたい。
使用量 (m3)	468	454	
実績値 (m3/従業員数)	10.40	5.27	
削減率	－	－	

化学物質使用量の削減

接着剤購入時は無駄な在庫を抱えないよう指導。

無駄な購入及び破棄を防いでいる。

自らが施工・販売・提供する製品の環境性の向上及びサービスの改善

一部施工現場において保証工事による損失が確認できた。

現場担当者が状況確認を行い再発防止に努めるとともに全体を把握する仕組み構築を検討する。

外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

今期は確認されていない。

環境経営計画の実施状況

区分	実施内容	確認・評価並びに是正
購入電力	休憩時間における一部消灯	各営業所で実施を確認。 周囲の状況を確認しながら無理なく行えた。
	残業時は必要箇所のみ点灯	退室時の消灯を厳守。 不必要な点灯を控えることができた。
	空調温度の管理　22℃～24℃	従業員の体調や終業時における快適さを第一に実施。 無理のない範囲で対応することができた。
	空調温度の管理　26℃～28℃	従業員の体調や終業時における快適さを第一に実施。 無理のない範囲で対応することができた。
	退勤時のPCシャットダウン	一部従業員においてシャットダウンに抵抗があるとの事。 無理強いはせず臨機応変に対応。
化石燃料	エコドライブの推進	作業員を軸に実施。
	アイドリングストップの推進	駐車場にてエンジンをかけたまま作業をすることがある。 負担にならない程度に実施するよう指導。
	過負荷,過積載の禁止	残土運搬時などの確認を徹底させることにより、過積載は確認できていない。
	特定自主検査等の実施	対象車両実施済み。

区分	実施内容	確認・評価並びに是正
各事務所	古紙の再利用を推進	裏紙としての使用や、古紙回収業者への受け渡しを徹底できた。
	再資源ごみの分別	前期同様、分別の徹底を実施することができた。
	混合廃棄物BOXの不定期確認	およそ月2回程度の確認を実施。
工事現場	廃棄物の分別排出	CREDASに則り的確な対応を確認。

区分	実施内容	確認・評価並びに是正
各事務所	節水の徹底	従業員全体で取り組むことができた。
	車両清掃時の事前泥落としなど	車両の清掃回数を減らし、無駄な排水を抑えることもできている。

中長期目標の取組結果

二酸化炭素排出量の削減

2018年度実績値を基準とし、中長期目標である2024年6月末までに「10%以上の削減」を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値（kg-CO2/売上高百万円）	–	89.78	87.95	86.12	84.29	82.45
排出量（kg-CO2）	209,352.31	205,387.53	209,198.01	201,298.49	196,527.23	190,101.22
実績値（kg-CO2/売上高百万円）	91.62	109.54	78.43	76.24	105.43	85.63
削減率	–	19.56%増	14.40%減	16.79%減	15.07%増	6.54%削減

※購入電力の二酸化炭素排出係数は2019年東京電力パワーグリッドの調整後排出係数0.462kg-CO2/kWhを使用

2023年度までの目標値を上回っているため、継続して精力的な活動を行っていきたい。
燃費や固定値の算出等、行うことは多々残っているため、できる限り改善を行っていく。

建設廃棄物排出量の削減

建設廃棄物排出量は工種等により内容が大きく変動するため目標の設置が難しい。
また、再資源化についてはCOBRISの使用により徹底しているため混合廃棄物の削減を目標とする。
2018年度実績値を基準とし、中長期目標である2024年6月末までに「5%以上の削減」を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値（kg/売上高百万円）	–	23.65	23.41	23.17	22.93	22.69
排出量（kg）	54,600	50,830	44,980	51,090	39,520	47,060
実績値（kg/売上高百万円）	23.89	27.10	16.86	19.35	21.20	21.19
削減率	–	13.44%増	29.43%減	19.00%減	11.26%減	11.30%削減

2023年度までの目標値を下回っているが、継続して活動を行っていきたい。
マニフェストの取り扱いについても再度確認を行い、様々なアプローチを試していく。

水使用量の削減

従業員数や工事内容によりマテリアルバランスの把握が難しい。
また、従業員数については事務所間の移動及び新規雇用が行われるためアオノ全体として把握する。
常に「10m3/従業員数」以下を目標とする。

	18.7～19.6	19.7～20.6	20.7～21.6	21.7～22.6	22.7～23.6	23.7～24.6
目標値（m3/従業員数）	–	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
使用量（m3）	468	423	444	402	427	454
実績値（m3/従業員数）	10.40	6.93	6.62	6.38	6.57	5.27
削減率	–	–	–	–	–	–

従業員の増減が懸念されるが周知徹底を行うことで対応していきたい。

化学物質使用量の削減

弊社で使用している化学物質は接着剤等の極少量に限られる。
使用時の注意点及び保管箇所等の周知徹底を行い、無駄な使用や排出を抑制する。

自らが施工・販売・提供する製品の環境性の向上及びサービスの改善

一部工事現場では補償工事（アフター対応）等の無償対応が見受けられる。
顧客満足度の向上を目標とし無償対応の削減に努める。

中長期目標の更新

二酸化炭素排出量の削減

2023年度実績値を基準とし、中長期目標である2029年6月末までに「10%以上の削減」を目標とする。

	23.7～24.6	24.7～25.6	25.7～26.6	26.7～27.6	27.7～27.6	28.7～29.6
目標値（kg-CO2/売上高百万円）	–	69.07	67.66	66.25	64.84	63.43
排出量（kg-CO2）	187,418.83					
実績値（kg-CO2/売上高百万円）	70.48					
削減率	–					

購入電力の二酸化炭素排出係数は2023年東京電力パワーグリッドの調整後排出係数0.408kg-CO2/kWhを使用

実績値を算出するための売上高に仕掛工事を含む

建設廃棄物排出量の削減

建設廃棄物排出量は工種等により内容が大きく変動するため目標の設置が難しい。

また、再資源化についてはCOBRISの使用により徹底しているため混合廃棄物の削減を目標とする。

2023年度実績値を基準とし、中長期目標である2029年6月末までに「5%以上の削減」を目標とする。

	23.7～24.6	24.7～25.6	25.7～26.6	26.7～27.6	27.7～27.6	28.7～29.6
目標値（kg/売上高百万円）	–	20.97	20.76	20.55	20.34	20.13
排出量（kg）	47,060					
実績値（kg/売上高百万円）	21.19					
削減率	–					

水使用量の削減

従業員数や工事内容によりマテリアルバランスの把握が難しい。

また、従業員数については事務所間の移動及び新規雇用が行われるためアオノ全体として把握する。

常に「8m3/従業員数」以下を目標とする。

	23.7～24.6	24.7～25.6	25.7～26.6	26.7～27.6	27.7～27.6	28.7～29.6
目標値（m3/従業員数）	–	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
使用量（m3）	454					
実績値（m3/従業員数）	5.27					
削減率	–	–	–	–	–	–

化学物質使用量の削減

弊社で使用している化学物質は接着剤等の極少量に限られる。

使用時の注意点及び保管箇所等の周知徹底を行い、無駄な使用や排出を抑制する。

自らが施工・販売・提供する製品の環境性の向上及びサービスの改善

一部工事現場では補償工事（アフター対応）等の無償対応が見受けられる。

顧客満足度の向上を目標とし無償対応の削減に努める。

次年度の環境経営計画

二酸化炭素排出量の削減

区分	実施内容	責任者	2024年		2025年	
			7～9	10～12	1～3	4～6
購入電力	休憩時間における一部消灯	高橋由美子	→	→	→	→
	残業時は必要箇所のみ点灯	羽田野武彦	→	→	→	→
	空調温度の管理　22℃～24℃	鈴木誠二 土屋利英子 渡邉宗昭		→	→	
	空調温度の管理　26℃～28℃	鈴木誠二 土屋利英子 渡邉宗昭	→			→
	退勤時のPCシャットダウン	山田享樹	→	→	→	→
化石燃料	エコドライブの推進	池田将生	→	→	→	→
	アイドリングストップの推進	池田将生	→	→	→	→
	過負荷,過積載の禁止	池田将生	→	→	→	→
	特定自主検査等の実施	山田享樹	各車両点検予定による			

建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

区分	実施内容	責任者	2024年		2025年	
			7～9	10～12	1～3	4～6
各事務所	古紙の再利用を推進	高橋由美子	→	→	→	→
	再資源ごみの分別	池田将生	→	→	→	→
	混合廃棄物BOXの不定期確認	池田将生	→	→	→	→
工事現場	廃棄物の分別排出	土屋智昭 鈴木誠二 鈴木治久	→	→	→	→

水使用量の削減

区分	実施内容	責任者	2024年		2025年	
			7～9	10～12	1～3	4～6
各事務所	節水の徹底	高橋由美子	→	→	→	→
	車両清掃時の事前泥落としなど	池田将生	→	→	→	→

環境関連法規などの遵守状況等

法規確認更新日　2022年6月23日

下水道法		
工事又は維持の際に公共下水道管理者の承認	第十六条	良
浄化槽法		
し尿及び雑排水を公共用水域等への放流禁止	第三条1項及び2項	良
浄化槽の使用に関する準則	第三条3項	良
浄化槽の保守点検及び清掃	第十条1項	良
浄化槽の定期検査	第十一条1項	良
都道府県知事の登録	第二十一条1項	良
浄化槽設備士の設置	第二十九条1項	良
騒音規制法		
特定建設作業の七日前までに市町村長へ届出	第十四条	－
振動規制法		
特定建設作業の七日前までに市町村長へ届出	第十四条	－
消防法		
消防設備士免状未所持者の消防用設備等工事の禁止	第十七条の五	良
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		
事業者は産業廃棄物を自ら処理しなければならない	第十一条1項	良
廃棄物が運搬されるまでの間、生活環境の保全上支障のないように保管	第十二条2項	良
産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合は基準に従う	第十二条5項及び6項	良
発生から最終処分が終了するまでに必要な措置を講じる	第十二条7項	良
多量排出業者の登録及び減量計画の作成	第十二条9項及び10項	良
都道府県知事の許可	第十四条	良
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例		良
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律		
建設資材廃棄物の発生を抑制及び費用低減	第五条1項	良
再資源化により得られた建設資材を使用	第五条2項	良
建設工事の規模に関する基準以上の物件においては分別解体等の実施	第九条	良
書面を交付して説明及び署名又は記名押印	第十二条及び十三条	良
再資源化等の実施状況に関する記録を作成	第十八条1項	良
各下請負人の指導	第三十九条	良
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律		
フロン類の管理の適正化に必要な措置	第六条	良
都道府県知事の登録及び更新	第二十七条及び三十条	良
フロン類充填に関する基準に従う	第三十七条3項	良
充填証明書の交付	第三十七条4項	良
フロン類回収に関する基準に従う	第三十九条3項	良
回収証明書の交付	第三十九条6項	良
廃棄等を行おうとする管理者は冷媒として充填されているフロン類を引き渡す	第四十一条	良
引取り証明書の交付及び保管	第四十五条	良
第一種フロン類再生業者又はフロン類は開業者へ引渡し	第四十六条1項	良
フロン類の運搬に関する基準に従う	第四十六条2項	良
回収した量、引渡した量、その他主務省令に定める事項に関し記録を作成	第四十七条1項及び2項	良
都道府県知事への報告	第四十七条3項	良
冷媒として充填されているフロン類の放出禁止	第八十六条	良
フロン排出抑制法に基づく簡易点検	第十六条	良
機器廃棄後記録の3年間保管	第十六条	良

環境関連法規などの遵守状況

評価の結果、環境関連法規への違反は確認されなかった。

また、対象期間において訴訟等も発生していない。

遵守状況確認 2024年　7月　5日　　代表者確認　2024年　8月　9日

環境管理責任者　羽田野武彦　　株式会社アオノ

ea事務局員　池田将生　　代表取締役　土屋智昭

代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による全体評価

コロナ禍の影響が遅れつつ発生する中、世界情勢が緊迫していることから原価の上昇が著しく、今は凌ぎの時だと感じている。
人材不足を解消する為に外国籍エンジニアや技能性の雇い入れを進め売上高の増加を目指しているが多国籍化には多くの課題がある。言葉よりも文字を使用すること等により徐々にうちとけ従業員一丸となりこの難しい情勢を乗り切ることが重要。

水道関係は従来よりライフラインとして重要視されているほか、昨今では空調関係も人命を守る為の業界へと変わりつつある。建設業界は本来はもっと人気であるべき仕事だと認識している。
このことがもっと周知されることで建設業界全体の待遇が改善され余裕が出てくることで環境改善にもつながるのではないかと思う。

当たり前のことを当たり前に行い、自主性をもって環境活動に取り組む様にすることで当活動も継続していきたい。

2024年　8月　9日
株式会社アオノ
代表取締役　土屋智昭

代表者による見直し指示

見直し事項	変更の必要性	指示事項
環境経営方針	□ 有 ☑ 無	
環境経営目標及び環境経営計画	□ 有 ☑ 無	
実施体制	□ 有 ☑ 無	